第4回JSSMセキュリティ公開討論会
パネル　「クラウドコンピューティングのガバナンス」

シマンテックのクラウド戦略

2010年2月20日（土）

株式会社シマンテック

SE本部　本部長　有吉　純

プロフィール

有吉　純　（ありよし　じゅん）
株式会社シマンテック
システムエンジニアリング本部　本部長

職歴：

1980 年4 月	ソラン株式会社 入社
2000 年4 月	ソラン株式会社 執行役員 技術統括室長
2003 年10 月	ソラン・コムセックコンサルティング株式会社 代表取締役社長
2005 年4 月	ソラン・コムセックコンサルティング株式会社 代表取締役社長退任
2006 年5 月	金融機関 執行役 システム担当
2007 年6 月	同社 執行役 退任
2007 年7 月	株式会社シマンテック 入社
2009 年4 月	株式会社シマンテック システムエンジニアリング本部 本部長

学歴：
1980 年 中央大学卒業

業界活動：
平成21 年3 月独立行政法人情報処理推進機構セキュリティセンター
「中小企業の情報セキュリティ対策に関する研究会報告書」

シマンテックについて

- 世界中にある情報を守り、管理するためのさまざまなソリューションを提供します。
- 以下の主要分野で世界No.1のシェアを誇ります。

セキュリティソフトウェア[1]、セキュアコンテンツ管理[2]、データ保護/リカバリ[3]、コアストレージ管理[4]、メッセージングセキュリティ管理[5]、電子メールアーカイビング[6]

1) Symantec analysis using IDC "Software Market Forecaster," December 2007, 2) Based on new license revenue, Gartner Dataquest, "Market Share: Security Software, Worldwide, 2006," Latimer-Livingston, July 2007, 3) IDC, "Worldwide Secure Content and Threat Management 2007-2011 Forecast and 2006 Vendor Shares:1+1=4," #207523, June 2007, 4) IDC, Worldwide data Protection and Recovery Software 2006 Vendor Shares, Doc # 209753, December 2007, 5) IDC, Worldwide Messaging Security 2007–2011 Forecast and 2006 Vendor Shares: DLP, Encryption, and Hosted Services Heating Up, Dec. 2007, 6) IDC, Worldwide Email Archiving Applications 2007-2011 Forecast and 2006 Vendor Shares, May 2007

シマンテックは世界で第4位(*1)のソフトウェアカンパニーです。

(*1)通期売上高ベースでの順位。第1位マイクロソフト、第2位オラクル、第3位SAP

本社： Symantec Corporation
所在地： 米国カリフォルニア州マウンテンビュー
従業員数: 17,500名以上
設立： 1982年4月

日本法人： 株式会社シマンテック
所在地： 東京都港区赤坂1-11-44
従業員数: 470名
設立： 1994年1月

- エンタープライズセキュリティNo.1
- コンシューマセキュリティNo.1
- データ保護No.1
- コアストレージNo.1

出典：IDC、Gartner

クラウドコンピューティングへの３つのアプローチ

クラウド サービスの自社提供

コンシューマに対して「Nortonオンラインバックアップ」、企業ユーザに対して「シマンテック ホステッド サービス」を提供し、お客様の情報の保護と管理を支援する。

クラウドに対応したインフラの提供

企業ユーザならびにクラウド事業者に対して、拡張性と自動化を組み込んだインフラ（アプライアンス）を提供する。

クラウドに対応したソフトウェアの提供

ソフトウェアとサービス提供のメリットをユーザ様が最大限に享受できるよう、最適化されたソフトウェアを提供する。

クラウド事業者としてのシマンテック

- Norton オンラインバックアップによる
  1100万人以上のアクティブユーザ

45PBの
ストレージ

- MessageLabsによる21,000社以上への
  メール/Webセキュリティサービスの提供

900万ユーザ
3~4億メール／日

- クラウドストレージプラットフォーム

- Amazon EC2にSEP（アンチウィルス製品）及び
  SF（ストレージ制御製品）を提供

クラウドは「情報がプラットフォームから独立する」という大きな流れの一部分にすぎない

システム中心

システムを保護し、管理する（ハードウェアやアプリケーション）

トレンド

新しいコンピューティングモデル
- クラウド
- SaaS
- アプライアンス
- 仮想化
- 検索

新しいエンドポイントデバイス
- ネットブック
- モバイル端末

新しいユーザー要求
- ITの「コンシューマ化」
- ソーシャルネットワーキング

新しい支払方法
- ITの脱資産化
- 柔軟な支払いオプション

情報中心

情報を保護し、管理する

symantec™

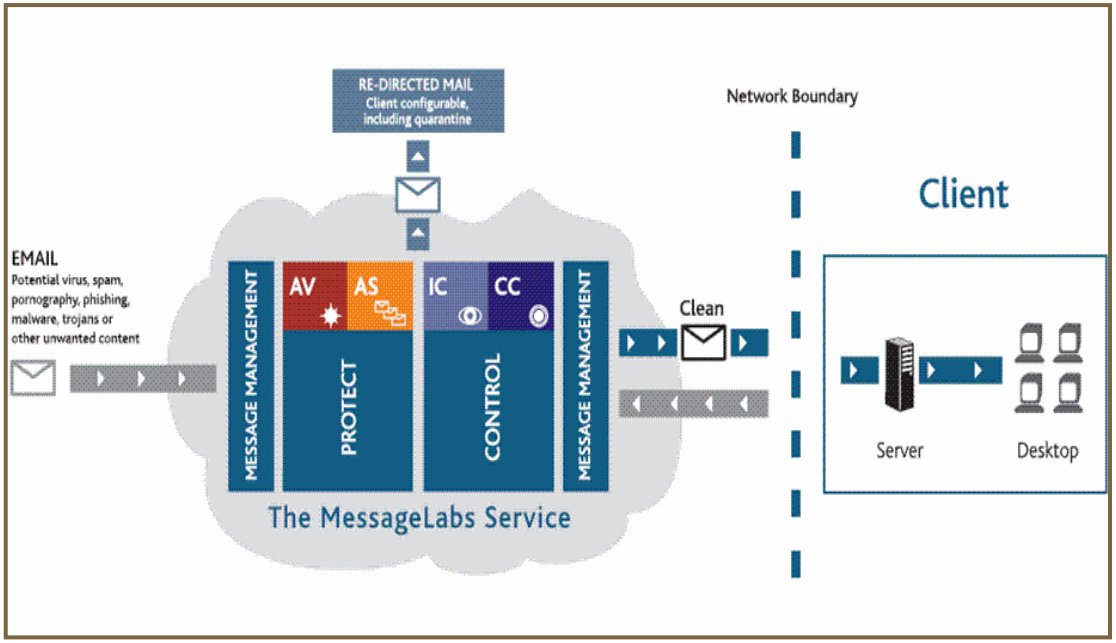
つながる世界。つなげる安心。

ありがとうございました。

有吉　純　（ありよし　じゅん）
jun_ariyoshi@symantec.com

クラウドサービス
“メッセージラボWebセキュリティサービス”

メッセージラボ Web セキュリティサービスは、インターネットレベルで動作し、ウイルス、スパイウェア、その他の Web上の脅威が企業のネットワークやリモートで働く社員に届く手前で阻止します。 また、URL やカテゴリによって不適切なWebサイトへのアクセスを遮断し、社員の生産性を落とさずにコンプライアンスを維持します。



	世界	日本
ユーザー社数	約21,000	約250社
ユーザー数	900万人	28万人
メール件数	3～4億メール／日	
センター数	14ヵ所	2ヵ所

メッセージラボのセキュリティ

- イギリス、アメリカ拠点においてISO/IEC 27001:2005認証取得　（2007年にBS7799から移行）
- Arizona、Denverデータセンターにおいては SAS70（TypeII）の認証を取得

物理面	• 全メールサーバは厳重に管理・監視されているデータセンターに設置 • 信頼できるデータセンターのみを選択 • Rackの施錠、専用の施錠区画の確保、同区画へのアクセスの徹底管理、常駐警備員 • 電源の2重化、UPS、緊急時用の発電機、消防設備、24時間のビデオ監視
論理面	• 最小限に限定されたメールサーバへのアクセスも３DESもしくはAES-128での暗号化された接続を徹底 • 高いセキュリティをサポートするQmailを用いたメールサーバの構築・運用 • 個人を識別するため、個々別々のIDの利用、徹底的なアクセスログの管理 • メールサーバ保護の為の専用ファイアウォールの設置
人材面	• 従業員採用の際は事前に2人以上のリファレンス、経歴書の確認、各種資格の確認、パスポート若しくは公的な身分証明書での本人確認 - アメリカ拠点では更に犯罪歴の調査（今後イギリスにおいても実施予定） • 全従業員との守秘契約

クラウドのセキュリティリスク

【制度面】
1. コンプライアンス①（個人情報保護法・不正競争防止法の国内法令等）
2. コンプライアンス②（e-discoveryなどの法令、機器・サービサーが国外の場合）
3. 内部統制への対応

【技術面
1. マルウェア対策
2. ユーザ認証（検疫）
3. モニタリング（サービサーとユーザによるモニタリング）
4. 仮想化技術（データの隔離）
5. ウェブアプリケーション（他システムとの連携）

【運用面】
1. 事業継続性
2. 暗号鍵管理
3. ぜい弱性対応
4. インシデント対応（データの復旧とフォレンジック）
5. 既存システムからクラウド環境への安全な移行計画
6. 特権ユーザによるアクセス（運用管理モデル）
7. 調査・監査・チェックに対する協力姿勢及び第三者評価

【クラウドのデメリット】
1. 現状の業務システムとの連携
2. システムの透明性
3. システムの信頼性や可用性
4. サポートのレベル
5. データを外部へ持ち出すこと
6. 内部統制の適用
7. 機密性が高い・差別化システムへの対応

クラウドのパラダイムはさまざまなインターフェースの課題を抱えている